



-1-

く泣きわめき、近所迷惑の心配をしなが  
ら、ネクタイ姿で子どもを抱いて子守歌。  
「お願いだから、眠ってくれ」、彼の切なる  
祈りです。なんの罪もない可愛いわが子  
だから、わが身を責めるしかなくなってしま  
う。そういう、働き盛りの一生懸命なパパ  
たちが、子育ての渦中で奮闘している働く  
ママたちが、そして、予備軍の若い社員た  
ちが、あなたのまわりにも確実に増してい  
るはずですよ。

### 「お願いだから、眠ってくれ」

「真夜中に家に帰って、寝ている妻や  
子どもを起してしまうのがかわいそうな  
ので、がんばって夜の10時には帰宅する  
ようにしています。でも、できることな  
ら時間を気にせず、もっと働きた  
いですね」

2歳のお嬢さんと正社員とし  
て働く奥さんとの3人家族、30代  
半ばの仕事に打ち込むパパの  
本音です。男性読者のみなさん  
は、こんな気持ちをもったことが  
ありますか？ 女性読者のみなさん  
、お宅の旦那はどうでしょう？

「そうそう、わかるよその気持  
ち!」という人、「へえ〜、そんなこ  
と考えるもんかねえ?」という人、  
労働組合のリーダー層の方々と  
はいえ、実体験レベルでは後者  
の「へえ〜」が多いのかもしれま  
せんね。

さきほどの話に戻しましょう。とくに、小さ  
なお子さんのいる家庭であれば、仕事で  
深夜に帰宅して、子どもをうっかり起して  
しまったらどんなことになってしまうか、リ  
アルに思い浮かべられるはずですよ。  
△運がよければ、しばらくすると泣き止ん  
でスヤスヤと寝息をたててくれる。  
▼眠りを中断された子どもは、烈火のごと



### それって「わがまま」なの？

私たち、ヒューマンルネッサンス研究所  
は、オムロンという電機メーカーの研究  
所でありながら、「豊かな社会、豊かな生  
き方って、どんな未来の中に描けるだろ  
う?」と大風呂敷を広げて、「働く」、「学  
ぶ」、「遊ぶ」、そして「暮らし」の近  
未来を探っています。

なかでも、「働く」という入り口から生  
き方考える「ワーク・ライフ・バラン  
ス」とい

うテーマは、とても大きなテーマです。大  
きな変わり目にもあり、大きなインパ  
クトもあります。

最近でこそ、「ワーク・ライフ・バラン  
ス」という言葉を知っている人も増え  
てきましたが、わかったような、わか  
らないような、当たり前のことだっ  
たり、理想であったり、現実から少  
し離れた話として受けとめられて  
いることのほうが多いでしょう。

もちろん、「仕事」と「生活」の「バ  
ランス」ですから、女性の子育て支  
援に限ったことでもありません。女  
性も男性も、若いも若きも、仕事  
も家族も自分も、ハッピーな生  
き方を望もうとする話です。それ  
って、とんでもない「わがまま」な  
のでしょうか? そうでもなさそう  
です。世界を見渡せば、それを当  
たり前にやっているハッピーな人  
々も見えてきます。

### 見方を変えれば、景色も変わる!

今回、私たちは「ワーク・ライフ・バ  
ランス」のテーマを、あえて女性の  
働き方や生き方からではなく、男  
性の子育てを入り口にして考え  
てみました。すると、意外なほど  
に、仕事と子育ての両立の悩みは  
女性だけではなく、働き盛りの男  
性サラリーマンからもボロボロと  
出てきました。

もはや、子育てや家族生活の豊かさ  
は、女性だけでなく男性もいっしょ  
に考えている時代です。世間では  
、そんな男性を「草食系男子」な  
ど揶揄する声もありますが、夫婦  
が共に暮らし、働き、ハッピーに  
なることは、素晴らしいですよ。そ  
ろそろ思い切って、みんなで見  
方を変えましょう。見方を変え  
れば、見える景色も変わってき  
ますよ!

この連載では、難しい話はしませ  
ん。ホッとくつろぎながら、グッ  
と迫れる話題を、身近な暮らしの  
場面からお伝えて、みなさんと共  
に価値あるワーク・ライフ・バ  
ランスの実現を考えたいと思いま  
す。よろしくお祈りします。 (なかま・しんいち)

※この連載は、ヒューマンルネッサ  
ンス研究所の中間真一主席研究員  
と鷲尾梓研究員が交互に執筆しま  
す

## 仕事と子育ての両立に悩んでいるのは ママだけじゃなかった!



「男たちのワーク・  
ライフ・バランス」

ヒューマンルネッサンス研究所編者  
幻冬舎ルネッサンス刊2008



■株式会社ヒューマンルネッサンス研究所(HRI)  
電機メーカーのオムロングループの未来社会・生  
活研究所。「自律社会」という未来社会コンセプト  
をもとに、生活者視点から未来を描き、社会生活と  
技術の関係や、地域社会、企業経営のこれからの  
国内外の調査を通じて展望する。子どもの学びを  
テーマとした研究誌『てら子屋』、生活価値観や未  
来観に関する『HRIリサーチレポート』、『市民のた  
めの遺伝子問題入門』(岩波書店)など多数。